

# 「何を、どのように学ぶか」を見通せるようにする 単元構成の工夫・改善 ～「学びの地図」に基づいた保健体育の単元デザイン～

朝 倉 潤

## I はじめに

次期学習指導要領は、道徳の特別教科化にみるように、学校教育が対応すべき新たな課題が提示された。さらに、全ての教科等において育成を目指す資質・能力が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3点から示された。次期学習指導要領における保健体育での試みは、他教科や学校教育全体で共有・評価されることにより、より適切なカリキュラムの設定を可能にすると考えられる。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、次期学習指導要領は、スポーツの多様性や可能性にも期待できるものが数多くある、と示していると考えられる。

今後は、こうした変化に追従するだけでなく、多角的な視点から検討することがますます求められるようになるであろう。そして、2020年以降の次期学習指導要領の完全実施に向けて、新しい教育課程編成への対応が、より一層学校現場に問われてくることになると思われる。

## II 研究の経過

国立教育政策研究所の教育課程研究での指定を受けた平成21年度及び平成22年度、研究成果として、「単元計画を構造化しその構造図を改善・更新することで、発達や学習段階に応じて指導内容を整理することができ、より明確な指導ができるようになる。」ということが示された。改善・更新された単元計画に従い学習を進めることにより、生徒が授業で使用する学習ノートへの記述が具体例を挙げられるようになっていたり、班やグループでの話し合いも積極的に行っていることが観察により見て取れた。このことは、平成22年度までの本校保健体育科の研究主題である「自ら活動する喜びを味わうことのできる保健体育学習」につながっていたと考えられる。

平成23年度は、学習指導要領に基づく取組で特に評価に着目し、「保健体育の力を伸ばす学習評価の在り方～パフォーマンス評価の充実～」という研究主題のもと実践研究に取り組んだ。その結果、ある運動においてパフォーマンス課題を与え、その課題に対する技能習得が初歩的な段階である時には、形成的評価を積み重ねていくことは有効な手段であるということが分かった。また、パフォーマンス課題を与えられた運動を分析することは、その運動を見る際の視点が定まり、生徒がその運動の特性を理解しやすいとすることができるということも成果として示された。

平成24年度は、言語活動を重視した学習指導に重きを置きながら、「知識を活用させ、思考力・判断力を育む学習指導の工夫」という研究主題のもと実践を積み重ねた。成果としては、体育の授業だけではなく、体育理論や保健で得た知識（例えば教科語彙）を用いて学習カードに記入させる等の指導方法は、知識を活用するような体育科での言語活動の一つとなり得ることが分かった。さらに、「種目の特性に関する教科語

彙」は、活用の仕方によって体育科での思考力・判断力を育む一つ的手段となることも示された。

平成 25 年度は、「体育的学力の確かな定着を図る体育授業を目指して」という研究主題のもと I C T 機器を活用しながら実践を積み重ねた。その結果、次の二つの成果が得られた。一つは、「体育的学力を高める上で、思考・判断の根拠となるものを見えるようにすることは、有効な手段となり得ることが分かったこと」である。もう一つは、「体育的学力を高める上で、I C T 機器を用いた授業は、有効な手段となり得ることが分かったこと」である。

平成 26 年度は、先述した通り、「体育的学力の確かな定着を図る体育授業を目指してⅡ」という研究主題のもと I C T 機器の活用を継続しながら実践を積み重ねた。その結果、次のような結果が得られた。それは、「主体的な学習における思考力・実践力の育成に努めることにより、仲間との豊かな関わり合いが生まれ、『課題設定⇒課題追求⇒評価（振返り）』という一連の学習活動が促されるということ」である。

平成 27 年度は、「アクティブ・ラーニングによる保健体育の学力の定着を目指して」という研究主題のもと実践を積み重ねた。結果を総じると、「アクティブ・ラーニングは、生徒の学習意欲を引き出し、生徒を主体的に学習させる上で有効な学習方法だといえる。しかしながら、アクティブ・ラーニングにより、保健体育学習への深いアプローチがなされるのか、また、アクティブ・ラーニングにより保健体育の学力を身に付けることができるのか、という二つの点については、平成 27 年度の実践結果からは導き出せなかった。

平成 28 年度については、「次期学習指導要領での各教科の方向性【中学校保健体育科】～「体育・保健体育、健康・安全ワーキンググループにおける審議の取りまとめ～」等を読み深めること等をして研鑽に努めた。

### Ⅲ 本年度の研究

#### 1. 研究主題及び研究副主題について

早稲田大学特任教授水原克つ敏氏の「中教審答申では、学習指導要領が『子供たちと教職員に向けて教育内容を定める』という全国的な基準設定という役割だけでなく、『学びの地図』であることも強調している。その説明では、『様々な立場から子供や学校に関わる全ての大人が幅広く共有し活用することによって、生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、子供たちの多様で質の高い学びを引き出すことができるよう、子供たちが身に付ける資質・能力や学ぶ内容など、学校教育における学習の全体像がわかりやすく見渡せる学びの地図』としての役割が期待されている。しかし、学習指導要領が『学びの地図』になるには、一人一人の主体的で選択的な学びが可能とならなければいけない。」<sup>1)</sup>という考えに基づき、本科では、『何を、どのように学ぶか』が見通せるようにする単元構成の工夫・改善」という研究主題を設定した。

本校保健体育科の「『何を、どのように学ぶか』が見通せるようにする単元構成の工夫・改善」という研究主題に迫るためには『学びの地図』の描写が不可欠であると考え、研究副主題を「『学びの地図』に基づいた保健体育の単元デザイン」とした。

#### 2. 本科における「年間単元配列シート」・「資質・能力シート」・「単元デザインシート」の開発について

『学びの地図』の構築を目指し、本校では、各教科で共通した「年間単元配列シート」・「資質・能力シート」・「単元デザインシート」を作成した。次にその一部抜粋したものを掲載する。

月	第1学年		月	第2学年		月	第3学年	
	体育分野	保健分野		体育分野	保健分野		体育分野	保健分野
4	OR 体づくり運動		4	OR 体づくり運動		4	OR 体づくり運動	
5	陸上競技 球技 ベースボール型	心身の機能 の発達と 心の健康	5	陸上競技 球技 ゴール型	健康と 環境	5	陸上競技 球技 ゴール型	健康な生 活と病気 の予防

<年間単元配列シートより一部抜粋>

	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力
知識	・運動の特性に応じた行い方や運動の知識（技能の名称・行い方・特性・成り立ち・運動観察方法）		
技能	・運動の特性や魅力に応じた基本的な技能（知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする）		
思考力 判断力 表現力 等	・自己の課題に応じ運動の取組方を工夫できる思考力 ・判断力・表現力（練習方法・自己や仲間を見付ける ・スポーツとの様々な関わり）		・社会の諸課題の解決に向け協働的に追究し、根拠をもって主張するなどして合意を形成する力

<資質・能力シートより一部抜粋>

(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力	評価時数			
(a)	知識・技能	運動の特性に応じた行い方や知識	1	2	3	
(a)	知識・技能	運動の特性や魅力に応じた基本的な技能	2	3		
(a)	思考力・表現力・判断力等	自己の課題に応じ運動の取組方を工夫できる思考力・判断力・表現力	4	5	6	
(a)	学びに向かう力・人間性等	生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度	7	8	9	10
(c)	思考力・表現力・判断力等	社会の諸課題の解決に向け協働的に追究し、根拠をもって主張するなどして合意を形成する力	7	8	9	10
時数	学習方法・学習内容	探求の課程	評価方法			
1	試しのゲーム ----- ゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力を振り返る	整理・分析	学習ノート			

#### IV 教科研究仮説

新しい時代のボールゲームについて、東京学芸大学副学長松田恵示氏は次のように述べている。「子どもの『必然性』のスタートは、当該の『ボールゲーム』そのものが持っている特性や魅力＝『その運動特有の面白さ』にあり、それをスタートにした『必然性』の連鎖の中に、身に付けさせるべき内容が、子ども自身の『めあて』として持たなければならない。(中略)このような特性や魅力に『今ある力でまずやってみる』ことを工夫されたゲームを通して夢中になったり、そこから『どうしたら?』というゲームの課題を発見し課題解決に取り組む、『主体的』『対話的』な学びが展開され、そしてそれが『生き抜く資質』を育むほどの力を『深い学び』として身につけていくのではないか」<sup>6)</sup>と述べている。これらのことからすると、単元全体を通し『今ある力で、球技の魅力や特性に触れていく』が大切であり、そのようなこの様な教育活動がなされる時にこそ、本校の本年度の研究主題である「何を、どのように学ぶかが見通せるような単元構成の工夫・改善」に迫れるのではないかと考える。

以上のことを踏まえて、本年度は次のような研究仮説を設定し、研究を進めることとした。

##### 【教科研究仮説】

『今ある力』で運動の魅力や特性に触れることで、

単元全体で何を学ぶかが見通せるようになる。

#### V 研究仮説に基づく実践例

##### 1. 単元 「球 技」 <ゴール型> (バスケットボール・中学3年生)

球技<ゴール型>では、「ボール操作」と「ボールを持たない時の動き」が重視されている。特にバスケットボールは、攻撃側のボール操作技術がシュートの成功率に大きな影響を与える。また、守備側としては、守るべきゴール近辺で相手にボールを持たせないようにすることが大切であると考えられる。さらに、バスケットボールの競技特性とも言える「攻防の切り替えの速さ」も大切な学習内容だと考えられる。これらのことを身に付けさせるためには、思考力・判断力を重視した学習指導を行わなければならないと考える。

##### 2. 単元計画の構造図を改善・更新することについて

国立教育政策研究所教育課程研究センターの研究指定を受けていた平成21年度及び平成22年度の本科の研究の課題は、『「単元計画の構造図」を改善・更新し続けること』であった。さらに今年度、本校で全教科共通して行っている『単元デザインシート』の開発から見えてきたことを反映すべく、今年度もまず、単元計画の構造図を改善・更新することから着手した。単元計画の構造図を改善・更新していくことは、生徒の実態に応じて指導方法を考える面からもとても大切であると考えられる。また、その単元に入る前に教師が指導内容の体系化を図る上でも有意義だと考えられる。

次に今年度の球技・ゴール型<中学3年生バスケットボール>の単元計画の構造図を掲載する。



### 3. 実践の本時案

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集合・整列・挨拶をする。</li> <li>○ ボールを使いW-U Pを行う。</li> <li>○ タスクゲーム(勝ち残り式ゲーム)を行う。</li> <li>○ 本時の目標を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 教え合うことを重視させる。</li> <li>○ 簡易な特別ルールで行わせる。</li> <li>◆ 単元を通し、バスケットを楽しむこと自体がねらいであることを確認させる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     今の自分達のでバスケットボールを楽しむにはどうするか(ルール面・技能面から検討する)                 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習や本時のタスクゲームを振り返り、「ルール面・技能面」について Google Form 上の質問に答え送信する。</li> <li>○ 送信された学級全体の結果を分析する。</li> <li>○ タスクゲーム(勝ち残り式ゲーム)を振り返り、ルール面技能面の両視点から、メインゲームをさらに楽しむためにはどうすべきかを班および学級全体で検討する。</li> <li>○ 検討されたメインゲームで勝つために、何をすべきかを班ごとに考えさせる。</li> <li>○ 班ごとにスクリメージを行う。</li> <li>○ メインゲームを行う。</li> <li>○ タスクゲーム(勝ち残り式ゲーム)とメインゲームにおける「楽しさの違い」を各自で振り返り、分析結果を Google Form で送信する。</li> <li>○ 「リーグ戦でさらに楽しむための考え」を『教科語彙』を参考に各自で考え、Google Form で送信する。</li> <li>○ 送信された学級全員の「リーグ戦でさらに楽しむための考え」を皆で共感する。</li> <li>○ 整列、挨拶、後片付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Google Form によるリアルタイムな結果を大切に捉えさせる。</li> <li>◆ 個人から小集団、小集団から大集団となるにつれて、合意形成していく事の難しさと大切さを理解させる。</li> <li>○ 球技において、真剣に勝利を目指すことこそが球技を楽しむことにつながることを理解させる。</li> </ul> <div data-bbox="651 1384 1102 1720" style="text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 勝敗結果や性別等を含めたチーム構成の在り方、競技経験の有無等に関わらず、球技そのものを楽しむことの大切さを理解させる。</li> </ul>	<div data-bbox="1190 972 1437 1155" style="text-align: center;"> </div> <p data-bbox="1158 1167 1461 1193" style="text-align: center;">【リングに取り付けた補助器具】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「今の自分達のでバスケットをさらに楽しむにはどうするか」ということを考えられる。</li> </ul> <p data-bbox="1206 1832 1477 1906" style="text-align: center;">【評価(Google Formの送信結果)】</p>

#### 4. 実践の結果

(1) 単元終了後に生徒に行ったアンケート結果（被検者 34 名）

Q 1. 今の自分達の力でゴール型球技の単元を学習した際に、ゴール型球技の魅力や特性を理解することができたか。

はい… 32 人 (94 %)            いいえ… 0 人 (0 %)            どちらともいえない… 2 人 (6 %)

Q 2. 今の自分達の力でゴール型球技の単元を学習した際に、単元全体で何を身に付けるべきかを見通すことができたか。

はい… 15 人 (44 %)            いいえ… 8 人 (24 %)            どちらともいえない… 11 人 (32 %)

(2) 参観していただいた方からのご意見

○単元はひとつのまとまりである。前の単元がどのように生かされていたかや中学 1・2 年時の単元を含め、3 年間の見通しがある中で、その単元を学習することも大切である。

○生徒が自主的に学習していた。ゲームを楽しむという要素が入っていたからであろう。これが『新しい学び方』か。このような考え方に発想を変化できるかが大切である。

○「何が楽しいか」というと「良い相手とゲームをすること」である。逆に捉えれば、「自分達は相手にとっての良い相手」となっているか。「良い相手になろう」という考え方。ソーシャルスキル（市民性）的な発想である。

○課題を焦点化する大切さ。ひとつの単元の中で、この部分を強調するのは□□時間目と言うふうにする。

○球技に人間関係が反映される。共感的な人間関係の形成は生徒指導的にも有効である。市民として学びに向かう人間性は、育成したい資質・能力につながる。

○楽しさを見つめるということは、「結果重視」と「プロセス重視」とがある。

○ひとつの単元の中で、今日学習するのは、「この技能」や「この知識」というふうに絞り込む大切さ。そうすると思考・判断なども焦点化される。

#### VI 仮説の検証（中間検証）

教科研究仮説について、次の点について検証する。

『今ある力』で運動の魅力や特性に触れることで、  
単元全体で何を学ぶかが見通せるようになる。

上記 4 の実践結果（1）に示した単元終了後の生徒に行ったアンケート結果からすると、「今ある力」で球技に取り組むことで、その魅力や特性を理解することは出来ると考えられる。しかし、単元全体を見通して何を学ぶかや学習の見通しを持つことも出来るとは言えないと考える。

単元全体で何を学ぶかや見通しを持つためには、上記 4 の実践結果（2）に示した授業参観者からの意見にあるように「今日学習するのは何々だ。」という具合に、単元全体の見通しを持たせつつ、本時で学習することを焦点化させなければならぬと考える。

以上のことからすると、「今ある力」で運動の魅力や特性に触れることで、単元全体で何を学ぶかが見通せるようになるとは言い難い、と現段階（中間検証）では考えている。

## Ⅶ 成果と課題

本年度中期までの研究を通して次のような成果が得られた。

- (1) 「今ある力」で運動に取り組むことで、その運動の魅力や特性を理解することは出来る、ということが分かったこと。
- (2) 「今ある力」で運動に取り組むことだけでは、その運動種目の単元で学ぶべき事が分かったり、見通しを持つことは難しいということが分かったこと。



<授業実践の様子>

## Ⅷ おわりに

昨年度は、「次期学習指導要領での各教科の方向性【中学校保健体育科】～「体育・保健体育，健康・安全ワーキンググループにおける審議の取りまとめ～」等を読み深めること等に努めた。今年度は、授業実践を通して深めていきたいと考えている。その際、保健体育科教師としての最も大切な役割は、「基礎的な運動能力の向上」や「健康な生活に対する知識と理解」，「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」に務めることに他ならないことを忘れずに、授業実践を行い続けたいと考えている。

### <引用文献>

- 1) 体育科教育 (2017年6月号) 大修館書店 14頁
- 2) 体育科教育 (2017年2月号) 大修館書店 13頁 14頁

### <参考文献>

- ・ 東洋館出版社(2016) 「国研ライブラリー 資質・能力 理論編」
- ・ 東洋館出版社(2016) 「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは
- ・ ぎょうせい (2016) 「学校ぐるみで取り組むカリキュラム・マネジメント」
- ・ 北海道教育大学附属函館中学校 (2017) 「教育研究大会研究総論」